

氏名 高津純也

東アジアには、中国起源の独特な中華・夷狄観がある。提出された論文は、その中華・夷狄観の淵源をたどり、『公羊伝』・『左伝』・『穀梁伝』それぞれに示された独特な中華・夷狄観を検討し、その検討結果を『尚書』に関して応用した。

一般には、春秋時代に整然とした中華・夷狄観ができあがっていたように考えられているが、実際には、自分たちを他とどのように区別するかの都市ごとの様々な言い方が存在し、それらが、戦国時代の領域国歌（官僚が地方都市に派遣される）の下でまとめられ、いくつかの地域色豊かな中華夷狄観ができあがっていた。提出論文は、その点を上記の書物によって検証したのである。天下が統一されると、それらの中華夷狄観はさらに一つにまとめられた。

提出論文はさらに、検証結果を利用して、松本雅明が残した研究成果を分析している。松本とは異なる方法からその検討内容を検証し、併せて松本に寄せられた批判の問題点を摘出して、松本の見解の概要を是認する。

殷代・周代および春秋時代において、漢字による表現として残された時期的な、あるいは地方性ゆたかな表現の存在を確認し、戦国時代において、国家ごとに独特なまとめがなされたことを検証した上で、従来の検討内容を検証したことは、とかく議論が錯綜しがちなこの時代の検討方法として、評価された。ただし、議論が錯綜しがちな現状は、個々の論者の歴史観・史料観の相違によってもたらされている。その現状を知る委員から、その点の確認がなされている。

松本の検討は、膨大な史料を渉猟し、広い視野からなされた大著として公刊されている。ところが、これに対する批判を是とすべきかどうか、是とするならいかなる意味で是なのか、否とするならいかなる意味で否なのかは、実のところこれまで、ほとんど検討されてこなかった。その結果として、長らく研究史のかたすみに追いやられていたこの大著を、あらためて検証の場に引きもどし、一定の成果を得たことは、評価されてよい。今後、この検討がさらに精緻化されることを期待する。

当研究が、『尚書』という古典を対象としているだけに、この古典がなお重視されている現代において、この研究のもつ意味はなお少なくあるまい。ただし、提出論文の内容をその中に位置づけていくには、古代や歴代のみならず、さらには近代史に関わる豊かな教養が要求される。今後、この作業の充実をはかることは、別に意味をもつ研究となるであろう。よって、本審査委員会は、本論文が博士（文学）の学位を授与するにふさわしい水準に達しているものと判断する。